

## 〈歴史パネル〉

### 東アジア金融の現代史

座長：早稲田大学 矢後和彦

#### 〈パネルの趣旨〉

本パネルは、東アジアの金融システムについて、中国・香港・韓国の専門家をお招きして「現代史」というスパンから包括的な論点を提起しようとする試みである。

第一報告「中華人民共和国の金融システム（1949-2017）」（城山智子）は、中華人民共和国成立後の金融システムについて国内「改革」と対外「開放」が密接に関連しながら進化したことに注目し、1950年代から現在にいたるまでの金融システムの構造と動態を検討する。第二報告「香港・中国間の金融関係（1945-2018）」（蕭文嫻）は、中華人民共和国成立以降の中国と香港の金融関係に着目し、香港に進出した中国系銀行の業務の分析をふまえてこれらふたつの地域にわたる金融的関係が継続したことを論証する。第三報告「証券発行市場の形成と韓国投資開発公社」（李明輝）は、韓国の経済成長期に発動された資本市場育成政策について、韓国投資開発公社の業務の推移に即して経済開発への影響と発行市場・流通市場の動向を明らかにする。

中国の金融システムの全体像を扱う第一報告と、中国・香港の金融関係を扱う第二報告は、いわば同時代の表裏一対をなしている。中国の地方政府や国有企業と金融システムの切り結びを取り上げる第一報告と、韓国の財閥系企業に株式公開を迫る当局・開発公社を取り上げる第三報告も、アジアにおける成長と金融のあり方をめぐって相照らす関係に立つ。つねに外の世界に開かれてきた香港を中国との関係でみる第二報告と、「国内資本動員」を強調した韓国の開発戦略をみる第三報告は、開発の経路について好対照をなす。いずれの報告もマクロとミクロの関係に留意し、また在来的な金融システム・金融業者の活動に目を向けている。

東アジアの金融について、史料にもとづく本格的な現代史研究がはじまっていることを開示できればこのパネルの目的は達せられる。